

日本体育・スポーツ・健康学会（JSPEHSS） 理事会通信（2025年2月13日号）

会員のみなさま

JSPEHSS 会長の來田 享子です。

比較的温暖な冬になるのかと思いきや、強い寒気のために東北・北陸地方などで例年の4倍にもなる積雪に見舞われている地域もあるようです。

米国ではトランプ氏が大統領に就任しました。次々と署名する大統領令の中に、ダイバーシティ&インクルージョンの観点でスポーツに関わる内容のものが 있습니다。この大統領令では、トランスジェンダー女性のスポーツ参加への禁止、2028年ロサンゼルス五輪に出場するトランスジェンダー選手へのビザ発給の停止などが含まれています。

公的高等教育機関における男女の機会均等を定めた連邦法である教育改正法第9編（タイトルIX）がある中で、補助金を盾に、公然と国際的な人権基準に反する決定が「自由の国」だったはずのアメリカで進められています。国際的な人権基準に則りながら、いかにすれば公平な競技ができるかを模索しているスポーツ界やオリンピックへの政治による介入は、日本にいる私たちも注視すべき出来事ではないかと考えています。

前置きが長くなりましたが、昨年12月14日開催された第12回理事会および2月5日に開催された特別講演会内容をもとに、理事会通信をお届けいたします。

議事次第は以下の URL からご覧いただくことができます。

<https://taiiku-gakkai.or.jp/wp-content/uploads/2025/02/jspe20241214.pdf>

□第74回大会（福岡大学）決算報告

台風の影響により初日と2日目はオンライン化を余儀なくされた大会でしたが、主管校のご尽力により、80万円弱の黒字で終わることができました。会員のみなさまのご協力に、改めて感謝いたします。

□第75回（日本体育大学）について

第75回大会の準備が例年どおり進められています。領域横断特別委員会では、応用研究部会のテーマ別シンポジウムの演題、テーマ別研究発表のテーマ等の原案が示され、承認されました。

口頭発表を予定されている会員のみなさまに直接関係することとしては、テーマ別発表の発表時間枠の変更があります。分野横断的な議論を進めるには発表時間が少ない、というご意見を以前からいただいていたことを受け、1名の発表枠を20分で固定し、演者が5～15分で個別に調整する方法を採用することとなりました。

分野やご自身の発表内容に適合する時間を使って、ぜひ、積極的に日頃の研究成果をご報告

ください。

近日中に大会ホームページが開設いたします。

□その他の議論

この他、名誉会員候補者の決定、体育史専門領域の名称変更申請の審査結果、「体育学研究」審査体制検討特別委員会の新設に関する審議を行いました。

□2月5日開催特別講演会「日本のスポーツ政策の未来を考える」

講師に遠藤利明氏（日本スポーツ協会会長）をお招きし、特別講演会が開催されました。300名を超える会員に、会場・オンラインからの参加申し込みをしていただきました。ありがとうございました。

2011年のスポーツ基本法公布前からのいわゆる「遠藤レポート」以来、国内スポーツ政策に議員としても関わってこられた遠藤氏の講演内容は非常に興味深いものでした。また、今回の特別講演では、スポーツ基本法を改正する議論が進む中、学会とスポーツ団体等、関係組織の対話の場の形成が重要であることを確認することができました。基本法の改正については、学会ではほとんど議論する機会がないまま現状を迎えています。参加者からの意見提示を受け、運営委員会を中心に学会からの要望を議員連盟等に届けることを検討いたします。

参加者の方には、アンケートが配布される予定ですので、ぜひご協力ください。

以上